事業報告

2007年度生涯学習教育研究センター事業の実施報告

1　主催事業

①公開講座

2007年度の公開講座は、8月3日（金）の「学校は危ない：教育活動に伴う危険とそれへの対処」を皮切りに、主に9月、10月の土・日を開催日として実施され、12月1日（土）の「日本語の教え方（初・中級）を考える」をもって全16講座が終了した。

各講座受講者の応募状況は、以下の表のとおりである。沼津会場の「自分で作ろうクオリティライフ（QOL）」や人文学部主催の静岡会場での「聞いてなっとく！日本語ゼミナール」など、教養講座的なものに参加者が多かった傾向がみられた。

生涯学習教育研究センターで主催した実質4講座のほかは、各学部主導に基づく公開講座として計画、実施されたものだが、学部がきわめて片寄って実施されているという現状である。今後は、運営委員の方々による各学部教員への意識の高まりを積極的にすすめていただき、地域への社会貢献をもっと進めていきたいと考えている。

■生涯学習教育研究センター主催

講座名	テーマ	開催日	講師	対象	受講料	会場	定員	実数
体験･大学の化学実験	ナイロンを作ってみよう	8/9	理学部准教授･近藤 満	中学生以上	2,000	静岡キャンパス	30	17
	鏡を作ってみよう	8/10						
自分史づくりと地域学	自分史作りの材料を探す	8/25	生涯学習教育研究センター教授･阿部耕也 研究協力･情報図書チーム職員･茎田美保子	一般市民	2,000	静岡大学附属図書館浜松分館	15	8
	自分史の作り方	9/1	情報学部准教授・赤尾晃一					
	自分史をインターネットで共有する	9/8	情報学部教授・大島純					
	自分史と地域学を結ぶ	9/15	生涯学習教育研究センター教授･阿部耕也 研究協力･情報図書チーム職員･茎田美保子					
自分で作ろうクオリティライフ（QOL）	健康概論と自立体力向上トレーニング	9/1	教育学部教授・中野美恵子	一般市民	2,000	沼津市立図書館	50	50
	終の住み家を考える	9/8	教育学部教授・小川裕子					
	食べ物と食べ方の両面からQOLを考える	9/15	教育学部教授・新井映子					
	長息で、長生きにつながる太極拳	9/29	共通教育非常勤講師・周佩芳					
イギリス・アメリカへの旅～文化と文学への誘い～	イギリス中世の文学と図像から	10/30	人文学部教授・久木田直江	一般市民	3,000	静岡市産学交流センターB-nest	30	21
	イギリス近代文学と日用品・美術品から	11/6	人文学部教授・鈴木実佳					
	日米コミュニケーションスタイルの比較	11/13	人文学部准教授・大村光弘					
	Searching for Emerson and Thoreau: A Trip to Boston	11/20	人文学部教授・Steve Redford					
	サンフランシスコの街と詩から	11/27	人文学部准教授・山内功一郎					

■人文学部主催

講座名	開催日	講師	対象	受講料	会場	定員	実数
聞いてなっとく！日本語ゼミナール	9/29	人文学部教授・勝山幸人 人文学部教授・服部義弘 人文学部教授・城岡啓二 人文学部教授・熊谷滋子	一般市民、高校生、外国人留学生など	2,000	静岡市産学交流センターB-nest	25	27

■教育学部主催

講座名	開催日	講師	対象	受講料	会場	定員	実数
「消費生活」を科学する！	8/24・25	教育学部名誉教授・外山知徳 教育学部教授・大村知子 教育学部准教授・色川卓男 教育学部教授・新井映子	学生（高校生、大学生）、教育関係者、一般の方	3,500	静岡キャンパス	30	8
運動不足解消のための エンジョイ大人卓球教室	9/ 22・23	教育学部助教授・吉田和人 NPO法人卓球交流会・山田耕司	一般市民	3,000	静岡キャンパス	50	38
女性テニス教室	10/2・9・13・16・23・30・11/6	教育学部教授・中野美恵子 教育学部教授・横山義昭 教育学部准教授・祝原豊	一般市民（女性）	7,400	静岡キャンパス	30	16

■教育実践総合センター主催

講座名	開催日	講師	対象	受講料	会場	定員	実数
学校は危ない： 教育活動に伴う危険とそれへの対処	8/3	教育学部教授・村越真	静岡県内の学校教育教員	700	静岡キャンパス	30	5
ワークショップ形式による 新しい理科実験・実習講座	8/9・8/10	教育学部教授・久田隆基 教育学部教授・碇　寛 教育学部教授・熊野善介 教育学部教授・小南陽亮 教育学部教授・丹沢哲郎	静岡県内の小学校教員	2,200	静岡大学教育学部附属浜松中学校	30	16
子どもの性行動の特徴と その問題点に関する基礎講座	8/11	教育学部准教授・赤田信一	静岡県内の教員	400	静岡市産学交流センターB-nest	30	7
小学校英語活動スキル・アップ講座	8/20	教育学部准教授・矢野淳 教育学部教授・林正雄	静岡県内の小・中学校教員	500	静岡大学附属教育実践総合センター	25	11

■農学部主催

講座名	開催日	講師	対象	受講料	会場	定員	実数
私たちの身近な環境学 ～炭素固定とバイオマス利用～	8/18	農学部教授・安村基 農学部教授・角張嘉孝 農学部教授・鈴木滋彦 農学部教授・滝　欽二	高校生、大学生、一般の方	500	グランシップ	40	23
青空教室	11/3	農学部准教授・河原林和一郎 農学部助教・浅井辰夫 農学部助教・八幡昌紀	小学生以上	500	静岡大学農学部附属藤枝フィールドセンター	80	63

■国際交流センター主催

講座名	テーマ	開催日	講師	対象	受講料	会場	定員	実数
日本語の教え方（初・中級）を考える	初級の教え方を考える	11/3	国際交流センター非常勤講師・久野美津子	日本語教育に従事する方、これから日本語教師を目指す方	5,800	浜松国際交流協会フォルテビル	30	27
	中級の教え方を考える	11/10						
	コンピューターを活用した教育を考える	11/17	国際交流センター教授・原沢伊都夫					
	教育内容を考える	11/24	国際交流センター准教授・袴田麻里					
	多様な教育実践を考える	12/1	国際交流センター教授・中里弘子 国際交流センター准教授・袴田麻里					

②公開シンポジウム

■大学と博物館を結ぶ⑩「地域とつながる博物館」

博物館学芸員が、地域や市民とどのような関係を築き、どのような考えのもとで日々の実践をおこなっているのか、現場の学芸員の実際の声を聞き、討論した。遠隔テレビシステムで静岡キャンパスと浜松キャンパスを結び、2会場で同時に進行した。このシンポジウムの内容の詳細は、本研究紀要で報告している。

・日時：2007年7月7日（土）13:00 ～ 16:00
・会場：（静岡会場）静岡キャンパス共通教育A棟301室、（浜松会場）静岡大学情報学部会議室
　　※静岡・浜松間をテレビ会議で結び実施
・内容：
　①「平塚市博物館の普及活動」報告：浜野達也（平塚市博物館学芸員）
　②「浜松市の広域合併と歴史系広域博物館群の形成」報告：太田好治（浜松市博物館学芸員）
　③「MOA美術館と地域・行政とのネットワークづくり」報告：田中之博（MOA美術館学芸部資料課長）
　④「静岡New Art『あなたの居場所』展の試み」報告：堀切正人（静岡県立美術館主任学芸員）
　⑤「コミュニティ・ベースの博物館活動――恐竜手づくりプロジェクトの事例から」報告：田口公則（神奈川県立生命の星・地球博物館学芸員）
・コーディネーター：金子 淳（生涯学習教育研究センター准教授）、高松良幸（情報学部教授）
・参加費：無料
・参加者：147人

■学習ネットワークと生涯学習⑩

地域や学校など様々な場面での学びを活性化する仕組み・ネットワークに関する研究および実践を紹介し、議論した。シンポジウム自体がネットワークを生むように「eラーニング」のシステムを取り入れ、シンポジウムの様子をネット配信し、掲示板でディスカッションできるような形態で開催した。

・日時：2008年1月26日（土）　13:00 ～ 15:30
・会場：静岡大学共通教育A棟301教室
・内容：
　①「交流型情報ネットワークシステムの構築――＜ふじのくにゆうゆうnet＞の事例から」報告：小池 孝則（静岡県総合教育センター生涯学習推進センター主査）
　②「学校・地域・NPOとの連携によるキャリア教育の実践」報告：小松みゆき（NPO法人SOHO・アット・しずおか事務局長）
　③「学習を支えるICT技術とコミュニティ――大学での授業実践を事例に」報告：益川 弘如（静岡大学教育学部准教授）
・コーディネーター：菅野文彦（教育学部教授）
・参加費：無料
・参加者：84人

③公開セミナー

■学ぶって楽しい！～大学で学ぼう～

知的障害のある人が、学校卒業後も生涯学習の機会を持ち、より豊かな人生を送ることができるようになることを目的に実施した。前期と後期の2回、それぞれ別の内容で実施した。

［前期］

・日時：2007年6月24日（日）　9:10 ～ 12:10
・内容：
　①「地震はなぜ起こる？」講師：小山眞人（静岡大学教育学部教授）

②「アイスブレイクからはじめよう～心理の世界へようこそ」講師：大畑智里（静岡大学教育学部附属特別支援学校教諭）

・参加者：社会人（高校生を含む）46人、大学生32人、その他30人、合計108人

［後期］

・日時：2007年10月28日（日）9:10 ～ 12:10

・内容：

①「コンビニの秘密」講師：伏見一茂（セブン・イレブン・ジャパン東海ゾーン）

②「モータってなんだ？～ペットボトルモータをつくろう！～」講師：増田好治（静岡大学名誉教授、NPO法人技術教育教材開発研究会）

・参加者：社会人（高校生を含む）44人、大学生30人、その他35人、合計109人

［共通事項］

・会場：静岡大学大学会館ホール

・対象：静岡県の知的障害養護学校等卒業の社会人（18歳以上）、県立養護学校（特別支援学校）等の教員、青年学級等の関係者・保護者、静岡大学教育学部特別支援教育（障害児教育）専攻の学生、静岡県知的障害者就労研究会会員など

・参加費：無料

・企画：静岡県知的障害者就労研究会

■安心登山・ハイキングのための読図講習

中高年のハイキング、登山ブームが続いている中、山岳遭難に占める道迷いの割合は3割近くにものぼっている。安心してハイキング、登山を楽しむため、しっかりした読図力を身につけることを目的に実施した。山岳遭難の実態の解説を含め、地図記号から等高線の理解までの初級の読図について、机上演習を交えて学んだ。

・日時：2007年12月8日（土）10:00 ～ 12:00

・会場：静岡市産学交流センター（B-nest）大会議室

・講師：村越 真（静岡大学教育学部教授）

・参加費：無料

・参加者数：23人

2　共催事業

■地域連携セミナー「座談会 南蛮の音楽･踊りと江戸の芸能～絵画資料でめぐる東西芸能史～」

駿府静岡歴史楽会との共催による地域連携セミナーとして、座談会を開催した。中世ヨーロッパから近世江戸にいたるさまざまな芸能文化について、豊富な画像や文献資料を交えながら、それぞれの専門の立場から話し合った。

・日時：2007年9月24日（月・祝）13:30 ～ 15:30

・会場：ふれあいホール（静岡市役所清水庁舎3階・旧清水市議会議場）

・講師：吉田稔美（イラストレーター・絵本作家）、武藤純子（学習院大学生涯学習センター講師）、久木田直江（静岡大学人文学部教授）

・進行：小二田誠二（静岡大学人文学部准教授）

・参加費：無料

・参加者：30人

・主催：駿府静岡歴史楽会／静岡大学生涯学習教育研究センター

・後援：静岡市

■文化講演会「この青い海と空を守れ!!」

有度国際セミナー・NPO法人エイジングブライト倶楽部との共催により、「この青い海と空を守れ!!」と題した文

化講演会を開催した。

・日時：2007年8月9日・23日（木）13:00 ～ 15:00
・会場：静岡市産学交流センター（B-nest）大会議室
・内容：
①8/9 「21世紀の羅針盤」講師：松田 智（静岡大学工学部教授）
②8/23「地球温暖化と生態系の異変」講師：鈴木 款（静岡大学創造科学技術大学院教授）
・参加費：1,000円（全2回分）
・主催：有度国際セミナー／ NPO法人エイジングブライト倶楽部／静岡大学生涯学習教育研究センター
・後援：静岡県教育委員会／静岡市

■公開シンポジウム「対人援助の倫理と法」

医療・看護・福祉・介護・心理から教育にまで広がる対人援助の場面における倫理や法の問題に関して共同研究をおこなってきたまとめとして、シンポジウムを開催した。全国的に活躍する論者を招き、静岡県下で活躍する心理関係者と法律関係者がそれぞれの現場の声を代表する形で、地域の関係者、関心のある方々とともに考えた。

・日時：2007年9月1日（土）13:30 ～ 17:30
・会場：静岡市産学交流センター（B-nest）大会議室
・提題：
①「援助職倫理の基礎と動向」講師：村本詔司（神戸市外国語大学外国語学部教授）
②「臨床心理士の活動と倫理～静岡県臨床心理士会の取り組み～」講師：福永博文（浜松学院大学教授・静岡県臨床心理士会会長）
③「法律的実務における心理的配慮について～犯罪被害者支援実務を例にして～」講師：白井孝一（静岡大学法科大学院教授・弁護士）
・参加費：無料
・主催：共同研究プロジェクト「対人援助（心理臨床・ヒューマンケア）の倫理と法」
・共催：静岡大学人文学部／静岡大学大学院法務研究科（法科大学院）／静岡大学生涯学習教育研究センター
・後援：静岡県臨床心理士会／静岡県弁護士会

■静岡県公民館連絡協議会共催事業「生涯学習指導者研修事業」

近年公民館を取り巻く環境は大きく変わってきており、また、家庭教育支援、人材育成、多文化共生への対応、地域づくりへの貢献など、地域社会のなかで期待される役割もその比重が変わりつつある。地域課題を探り、住民との連携をはかりながら活動を行う各地の公民館の事例に学びながら、公民館と地域の連携のあり方などを検討する目的で開催した。地域づくりに取り組む公民館でのリーダー養成や生涯学習関連施設との連携、NPO法人と連携などが熱く語られた。

・日時：2008年1月30日（水） 10:30 ～ 16:00
・会場：清水興津公民館
・研修テーマ：「学校・家庭・地域における連携の拠点としての公民館」
・内容：
①基調講演「地域社会の絆をはぐくむ：学習共同体の拠点としての『公民館』への期待」講師：澤野由紀子（聖心女子大学准教授）
②事例報告
「公民館を核とした、地域による子育て支援」報告：江川長一（焼津市港公民館長）
「地域子ども育成事業における連携のあり方」報告：有海憲弘（浜松市立神久呂公民館長）
「仲間づくりと地域への愛着を促進する公民館～人づくり街づくりを目指して～」報告：平野勇一郎（磐田市立豊田西公民館長）

「焼津市子ども創造の広場　NPO法人ゆめ・まち・ねっと～スタッフの役割を中心に～」報告：西山健悟（静岡大学教育学部4年）

「玉取むらづくり会議～住民の取り組みを中心に～」報告：山田勝之（静岡大学教育学部4年）

③パネルディスカッション

パネリスト：事例報告者

コメンテーター：渋江かさね（教育学部准教授）

司会：阿部耕也（生涯学習教育研究センター教授）

・参加費：無料

・参加者：公民館職員その他53人、学生12名、計65人

・主催：静岡県公民館連絡協議会、静岡大学生涯学習教育研究センター

3　企画協力事業

■富士川町・静岡大学特別公開講座「茶文化と日本人のくらし」

富士川町文化事業振興会主催で、当センターが企画協力した大学公開講座。この講座は、静岡大学のほか、静岡県立大学、常葉大学、東海大学の4大学がそれぞれテーマの設定や講師の選定を担当して実施されるもので、静岡大学では「茶文化」をテーマに企画した。お茶の歴史や文化､効用､現代の生活にもたらす意義などについて､5回にわたって、歴史学、文化人類学、経済学、農学、茶道などさまざまな立場から総合的に考えた。

・日時：2007年9月27日・10月4日・11日・18日・25日（木）［計5回］19:00 ～ 21:00

・会場：富士川町中央公民館

・内容：

①9/27　「中国での茶文化の起こり」講師：埋田重夫（静岡大学人文学部教授）

②10/4　「近代静岡の茶業発展」講師：山本義彦（静岡大学理事・副学長）

③10/11「お茶の効用と生活での活用」講師：杉山公男（静岡大学農学部教授）

④10/18「現代のくらしと茶の湯の精神文化」講師：吉野亜湖（茶道研究家）

⑤10/25「お茶から読み解くイギリスの歴史と文化」講師：鈴木実佳（静岡大学人文学部教授）

・参加費：3,000円

・参加者：17人（通し申込者）

・主催：富士川町文化事業振興会

・共催：富士川町・富士川町教育委員会

・企画協力：静岡大学生涯学習教育研究センター

■吉田町・大学特別公開講座「郷土における武田・徳川の攻防」

吉田町教育委員会主催で、当センターが企画協力した大学特別公開講座。6回にわたり、吉田町周辺の史跡の話を織り込みながら戦国時代の郷土に思いをはせた。

・日時：2007年9月21日・28日・10月5日・12日・26日・11月2日（金）［計6回］19:30 ～ 21:30

・会場：吉田町中央公民館

・講師：小和田哲男（静岡大学教育学部教授）・本多隆成（静岡大学人文学部教授）

・内容：

①9/21　「今川氏の遠江進出と大井川西岸地域」（小和田）

②9/28　「今川義元・氏真時代の吉田町とその周辺」（小和田）

③10/5　「武田信玄と家康～三方原の合戦～」（本多）

④10/12「武田勝頼と家康～高天神城の攻防～」（本多）

⑤10/26「豊臣秀吉と家康～小牧・長久手の合戦～」（本多）

⑥11/2　「山内一豊と掛川領支配」（本多）

・参加費：2,000円
・参加者：40人（通し申込者）
・主催：吉田町教育委員会
・後援：静岡大学人文学部日本史学研究室
・協力：静岡大学生涯学習教育研究センター

4　市民開放授業

静岡大学市民開放授業は、静岡大学の学生が受講している正規の科目の一部を一般市民の方に開放し、正規学生と一緒に受講できるようにしたもので、2005年度から実施している。

2007年度の受講者数は137名で、平均年齢は62.0歳となっている。また、開講科目数および受講科目数は以下の表のとおりである。

	共通教育	人文学部	教育学部	理学部	農学部	工学部	情報学部	計
開講科目数	128	114	21	77	7	9	10	366
受講科目数	48	46	5	11	5	0	1	116

■市民開放授業懇談会の開催

市民開放授業の2007年度後期の受講生募集に先立ち、市民開放授業の「事前説明会」と、市民開放授業受講生による「懇談会」を開催した。

「懇談会」は、市民開放授業制度導入後3年目を経過して、受講体験者が、このシステムをどのように評価し、今後の静岡大学に何を期待しているかを探るために、受講者の皆さんと直接、意見交換をする場を設けたものである。

・日時：2007年9月20日(木)　事前説明会：10:00 ～ 11:00　懇談会：11:00 ～ 12:00
・会場：静岡市産学交流センター（B-nest）6F プレゼンテーションルーム
・参加者数：40人（ほかに聴講者からの意見アンケート葉書を受け取っている）
・懇談会の内容（要旨）：

[受講生からの意見・感想]

・受講者に広報をお願いしたい。
・17年度から参加している。会社での仕事と違って、抽象的な議論ができて良かった。
・前期受講。経済社会ほか、政治自体に納得がいかないために受講した。先生方がどのように教育しているか確認の意味でも受講した。
・社会人が加わることによって、現実を見ることができる。静大は授業で議論がない。学生との交流があると良い。自分にとって何（仕事）があっているのかなど、大学で自分を見つける良い機会だと思う。後期も受講したい。
・学生との間のコミュニケーションがない。学生たちとの会話の機会が欲しい。
・まわりの学生とよく話すようにしている。学生から「なぜ勉強しているのですか」との質問があった。先生に対しては手紙をしょっちゅう出している。
・学生同士もコミュニケーションが少ない。県大も同じ。静大は留学生が多い。教員は遠慮して教えているようだ。毎年、学生アンケートがあるが、先生の評価となるのでマイナスにならないようにしている。騒がしい学生に対して注意していない。終了直前に入ってくる学生がいても注意しない。
・スタッフの方、熱心に対応してくれている。今回のような懇談会（アンケート）を実施してくれていることがとてもよい。県大は何も対応しない。
・70歳以上である。結構コミュニケーションはうまくやっている。コミュニケーションは自分から入っていかないとだめ。特にゼミなど留学生と社会人が前の席にいて、他の学生は最後尾にいるため、始まる前に学生に前に座るよう言ったことがあった。大学は汚い。学生の掲示板は期限切れがあったり、教室の黒板が汚い。倒産した会

社みたい。また、遅刻者が多い。学生・教員もいる。注意すべき。大学の常識は社会の非常識。

・安い講習料でありがたい。学生は6名で少ないため、けっこう勉強している。アンケートで学生に媚びてはだめと教員に言ったことがある。学生自治会がない。学生に元気がない。大学の精神があるのか？静大の目標は？帰属意識はあるのか？精神的な支柱が必要ではないだろうか。

・県大に行っていた。静大にも社会人の講座があると聞き、はじめて来た。

・はじめて受講。単位がなければ続かないと思う。励みに何かほしい。

・リーズナブルのため、年金生活者としてはとてもありがたい。学生とコミュニケーションをとり、とても楽しかった。アッパレ会に参加したが、フィールドワークが多く疲れた。校歌なども必要では。

・大岩校舎のときに比べて、教員は親切であり、きちんと書いているのでとてもよい。

・学生とのコミュニケーションではなかなか発展していかない。何人かの学生とは親しくなった。学生自身ばらばらなので、学生と討議することはない。

・私自身高卒のため、レベルが高く感じる。カルチャーセンターを受ける気はなく、自分に簡単に学力が身につくものとして受講。娘が大学に行っている。

・実際に教員にも刺激をいただいている。大学自身も良い。地域の力を明確にしていくことが必要。

［意見交換］

（センター長）大学を変革したいと考えている。社会の目が必要だし、教員も努力が必要。先生達にはそういう要望を出している。

（受講生）人間にかかわる授業が少ない。県大の方がきれい。社会人は遠慮がある。

（センター教員）今後の方向､授業のかたち､方法を変えてほしいという声がある。B-nestを使う等､検討したい。キャンパスツアーに学生を導入したい。また、大学祭に市民開放授業の受講生の参加を検討している。

（受講生）コミュニケーションはそれぞれが実施すれば良い。遅刻はそれぞれのため仕方がない。大学は自由でよいのでは？大学では自由な考えで良い。

（センター長）今までは非常におそまつな対応だった。法人化したから、特に予算面で自由にできるようになった。開放授業など、学生たちへのサービスについて、教員たちも考える必要がある。大学も、社会の礼儀も教える必要がある。社会からの批判に対応したい。これが大学の責任である。